住環境財団研究助成 2024 年度報告書

研究課題名：南アジア・東南アジアにおける古代仏教僧院の住環境に関する調査研究

研究代表者：東京大学東洋文化研究所・馬場紀寿

研究の背景・目的

本研究は、古代仏教僧院の住環境を調査し、住環境の歴史を解明することを目的としている。古代南アジア・東南アジアの住居は残っていない故に、その住環境の研究はほとんど不可能だが、古代仏教僧院が石窟で残っているため、仏教僧院の研究を通して古代の住環境を解明することができる。そこで、南アジア・東南アジアにおける古代仏教僧院に関連するフィルム画像をデジタル化し、古代仏教の出家者たちの住環境の調査を進める。

幸いに、南アジア・東南アジアの仏教僧院とそれに関連する美術作品を撮影してきたプロカメラマンである大村次郷氏による写真コレクションがあるため、日本は世界の中でも特権的に優位な条件で本研究を進めることができる。そこで、本研究は、大村氏の写真フィルムをデジタル化することを目的とする。

大村氏の写真フィルムのデジタル化により住環境の歴史的研究に多大な貢献をなしうるとともに、デジタル・コレクションを東京大学東洋文化研究所に設置することにより国内外の研究者の閲覧が可能になる。資料の貴重性と画像の精細度により古代仏教僧院の住環境にかんする研究を刷新し、ひいては東京大学を本研究に関連する国際的な重要拠点とすることが予想される点に、本研究の意義がある。

研究の実施方法

古代仏教僧院の住環境を調査するに当たり、世界的に見ても極めて高い価値を有しているのが、日本のプロカメラマンである大村次郷氏により撮影された写真コレクションである。大村次郷氏は、1970 年代から、仏教美術史研究者らの指導を受けながら、南アジア・東南アジアの仏教僧院やそれに関連する美術作品を撮影してきた。大村氏による 5000 点を超える写真群は、質量ともに、研究者らが撮影した写真群をはるかに凌駕する。さらに、大村氏の写真コレクションは現在撮影できなくなった文化財の画像を多量に含む。世界に卓越したコレクションであるという点で、２０世紀日本の偉大な学術資産である。

しかしながら、大村氏は写真すべてをフィルムで保存しており、将来フィルムの保存状態が悪化すれば、この貴重な資料は永久に失われてしまう。そこで、本研究では、大村氏の写真フィルム 2500 枚をデジタル化して、これらの総合的調査を実現する。大村氏は、写真のデジタル化を許可する条件として、彼がデジタル化の技術を最も信頼する堀内カラーに依頼することを挙げており、デジタル化の作業は堀内カラーに依頼した。

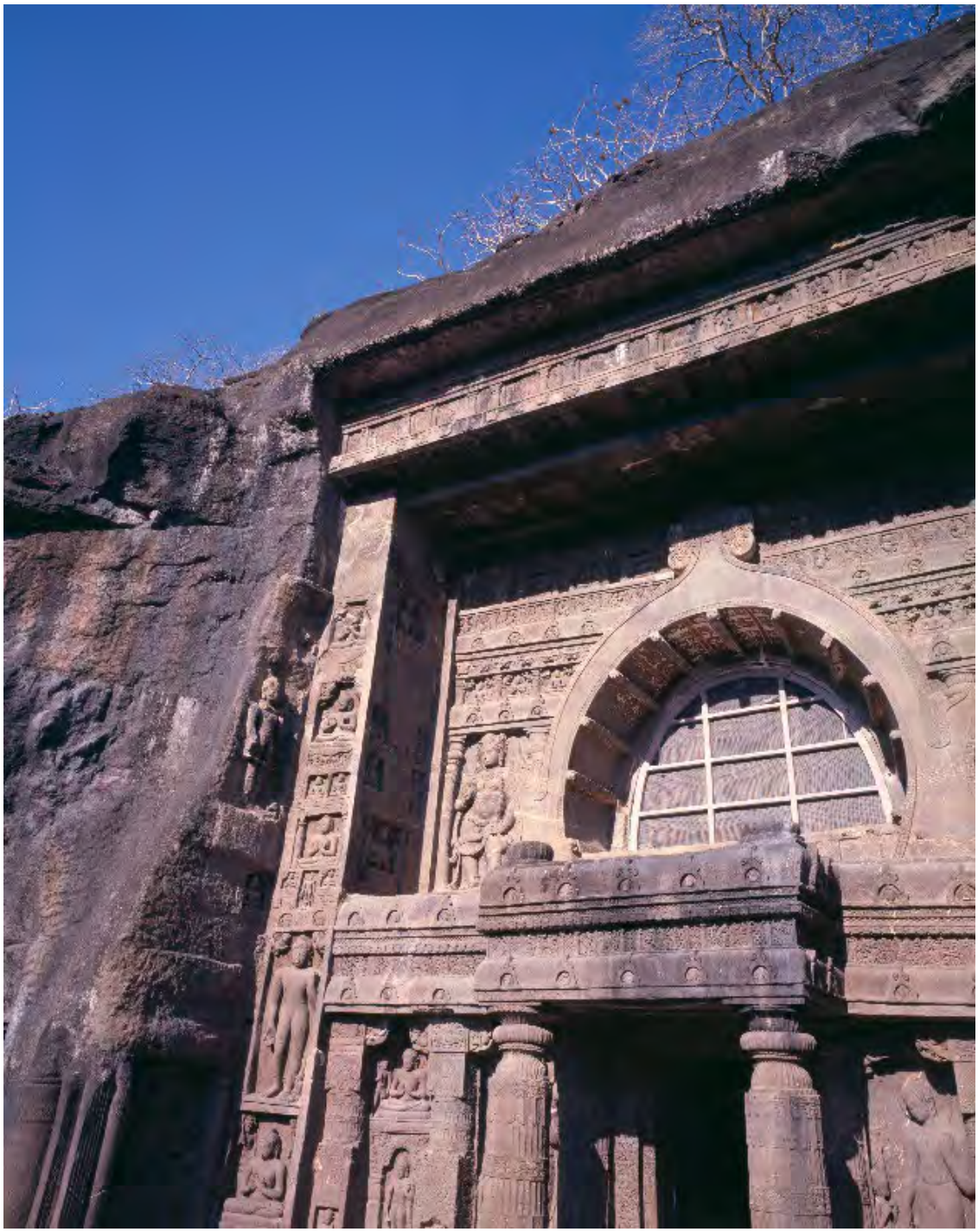
延長した理由

大村氏による写真の整理に予想以上の時間がかかっており、大村氏による写真デジタル化の 2500 枚のうち、諸事情により、一部（323 点）しかデジタル化が終わらなかった。延長された一年で残りをデジタル化して、研究を完了させたいと考えている。

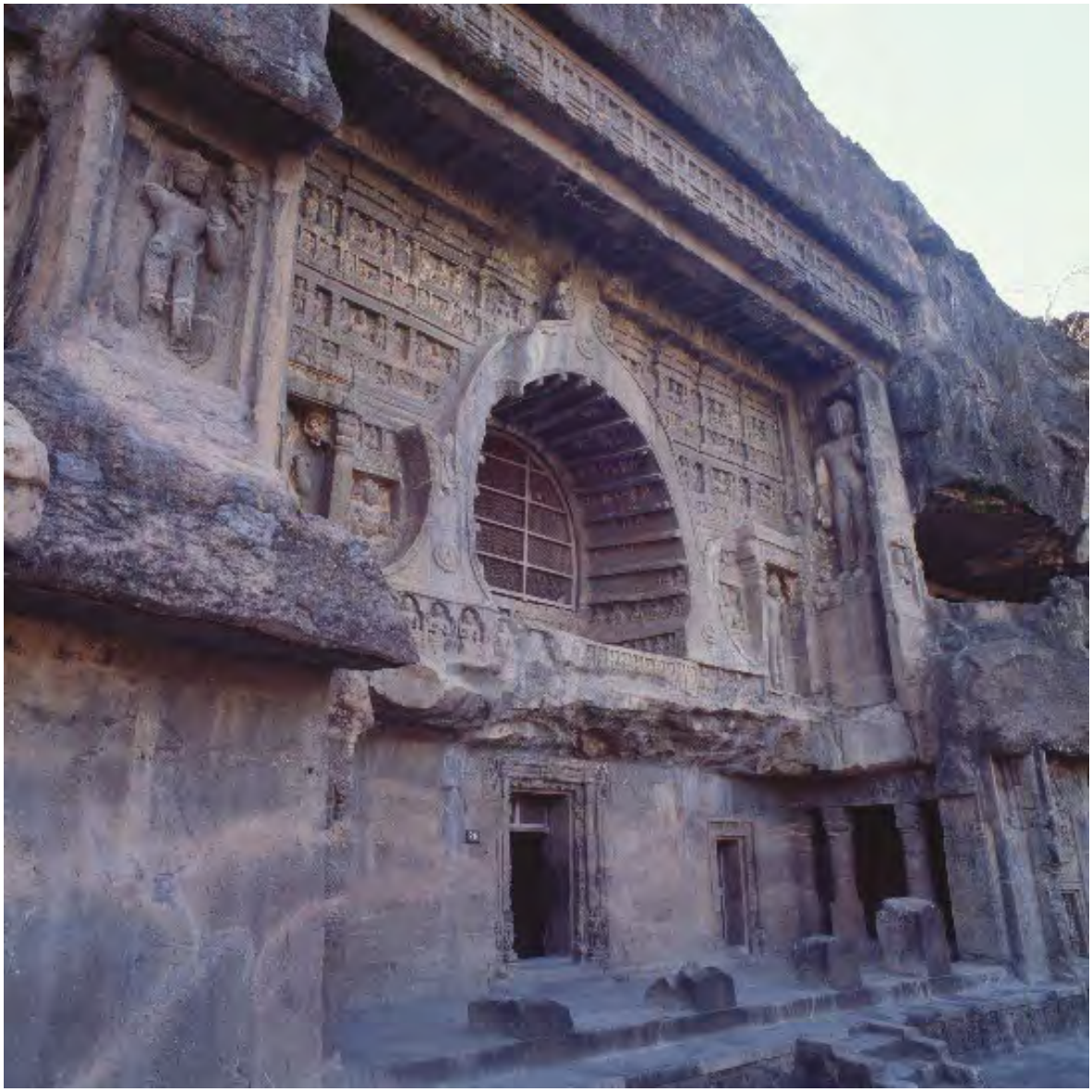
研究成果

大村氏のデジタル画像のうち、掲載の許可を取ったものの一部を本報告書に掲載する。

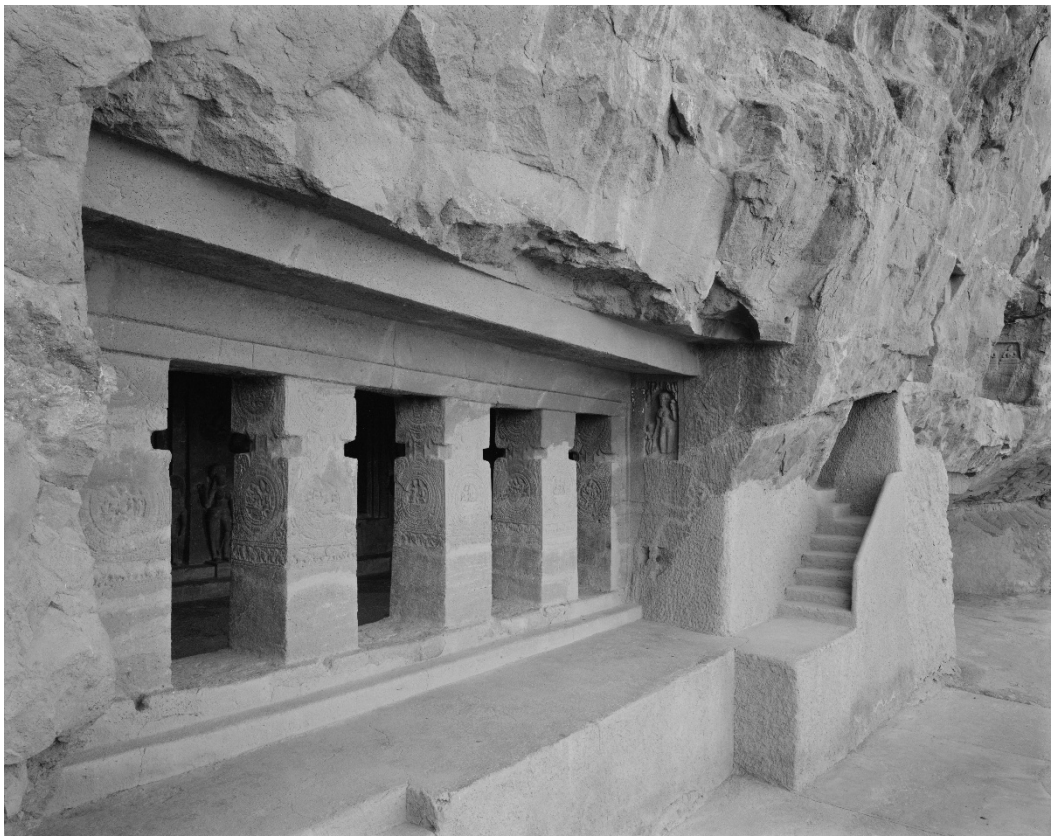
第十九窟　仏像（転法輪）

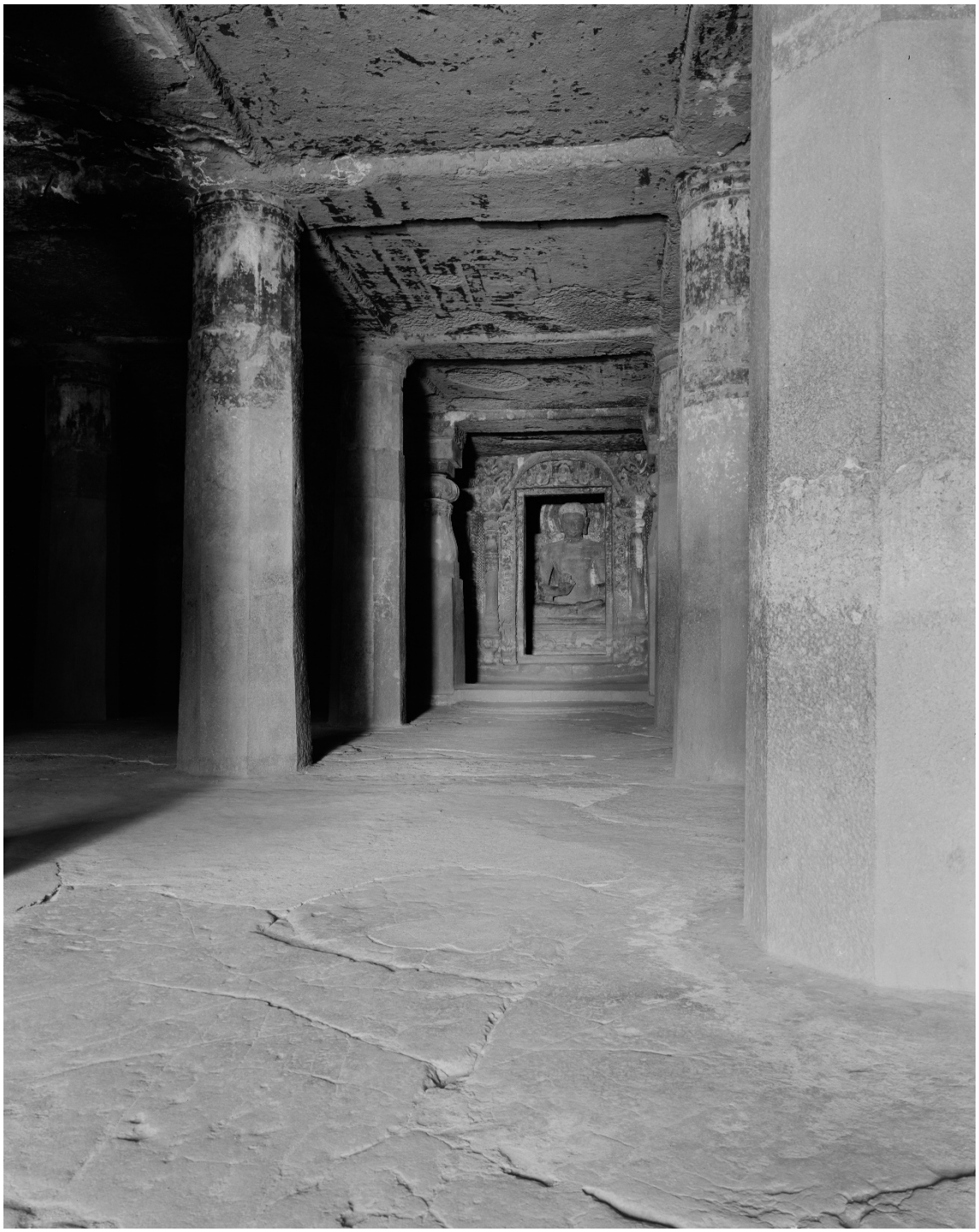


第十九窟　ファサード



第二十六窟　ファサード





会計報告

支出費目	明細	支出
資料費	大村氏の写真のデジタル化	1,312,080
間接経費		1,000,000
繰り越し	来年度に使用予定	7,687,920
合計		10,000,000